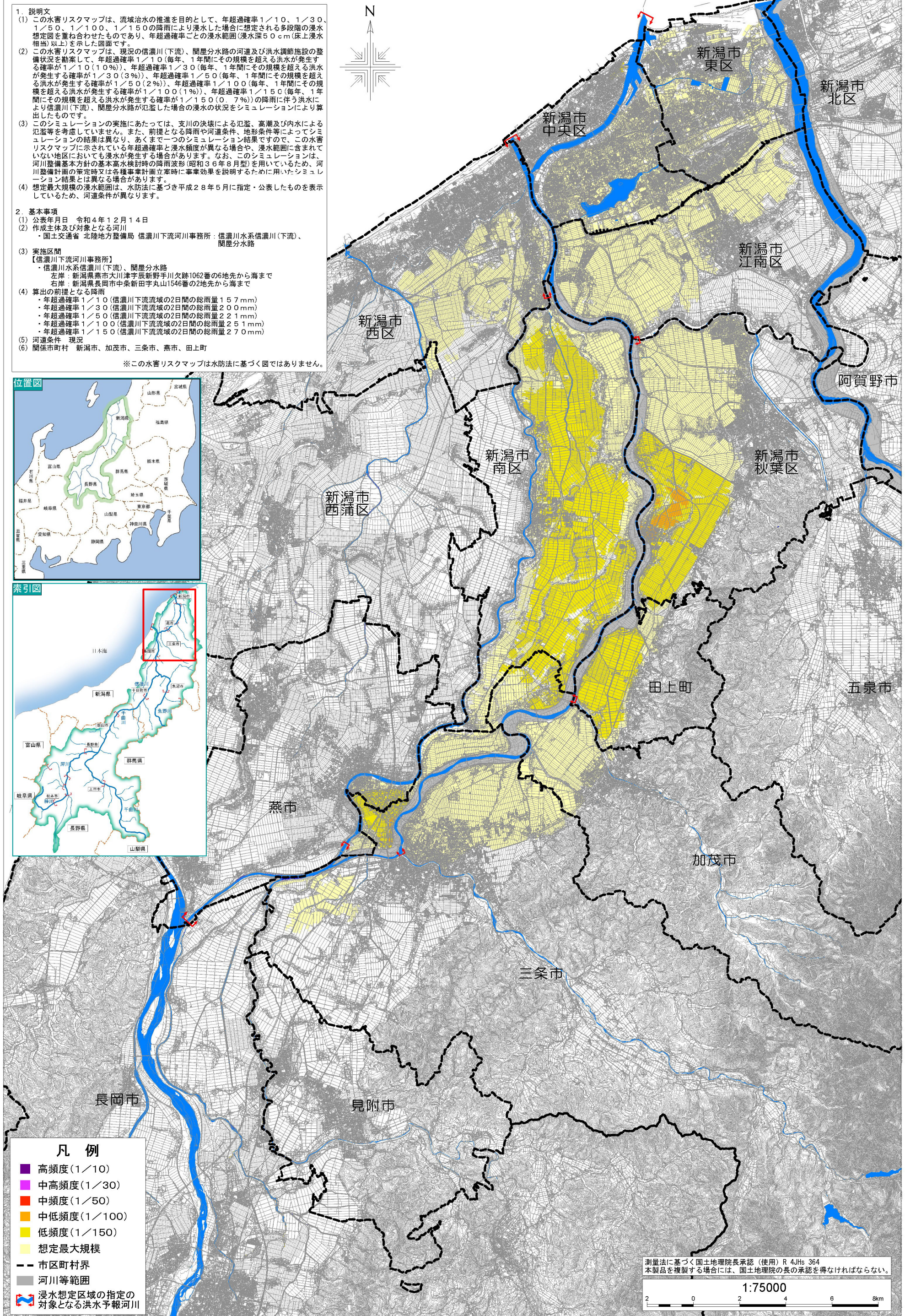
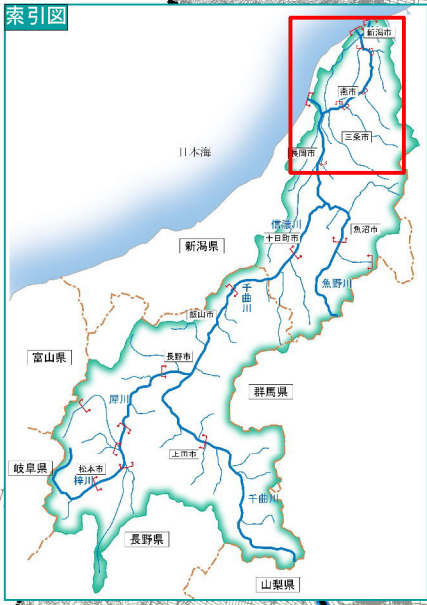
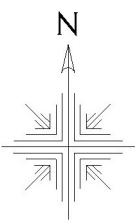


信濃川水系信濃川(下流)、関屋分水路 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ (浸水深50cm(床上浸水相当)以上) 【現況河道】

1. 説明文
- (1) この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100、1/150の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲(浸水深50cm(床上浸水相当)以上)を示した図面です。
 - (2) この水害リスクマップは、現況の信濃川(下流)、関屋分水路の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/10(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/10(10%)、年超過確率1/30(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/30(3%)、年超過確率1/50(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50(2%)、年超過確率1/100(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100(1%)、年超過確率1/150(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/150(0.7%)の降雨に伴う洪水により信濃川(下流)、関屋分水路が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
 - (3) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の決壊による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果です。この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形(昭和36年8月型)を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
 - (4) 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成28年5月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。
2. 基本事項
- (1) 公表年月日 令和4年12月14日
 - (2) 作成主体及び対象となる河川
 - 国土交通省 北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所：信濃川水系信濃川(下流)、関屋分水路
 - (3) 実施区間
 - 【信濃川下流河川事務所】
 - ・信濃川水系信濃川(下流)、関屋分水路
 - 左岸：新潟県燕市大川津字辰新野手川欠跡1062番の6地先から海まで
 - 右岸：新潟県長岡市中条新田字丸山1546番の2地先から海まで
 - (4) 算出の前提となる降雨
 - ・年超過確率1/10(信濃川下流流域の2日間の総雨量157mm)
 - ・年超過確率1/30(信濃川下流流域の2日間の総雨量200mm)
 - ・年超過確率1/50(信濃川下流流域の2日間の総雨量221mm)
 - ・年超過確率1/100(信濃川下流流域の2日間の総雨量251mm)
 - ・年超過確率1/150(信濃川下流流域の2日間の総雨量270mm)
 - (5) 河道条件 現況
 - (6) 関係市町村 新潟市、加茂市、三条市、燕市、田上町
- ※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。



凡例

- 高頻度(1/10)
- 中高頻度(1/30)
- 中頻度(1/50)
- 中低頻度(1/100)
- 低頻度(1/150)
- 想定最大規模
- 市区町村界
- 河川等範囲
- 浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川

測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R 4JHs 364
 本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。

1:75000